



第44回旭川地区ミニバスケットボール選手権大会総評

6年生にとっては最後の大会ということもあり、どのゲームもその気迫が伝わるプレーや、諦めないプレーが随所で光っていました。コート選手はもちろん、見ている人も胸が熱くなるようなナイスプレー、ナイスゲームが繰り広げられた、素晴らしい大会だったと思います。

1年間、「正しいマンツーマンDEFについて」課題に挙げてきました。今大会では、どのチームもその意識の高まりが感じられ、ボールだけでなく自分のマークマンを責任もって守ること、またヘルプ&ローテーションやダブルチームが解消されてからの再マッチアップも正しく行われ、DEF力の向上が感じられました。コフィンコーナーでのダブルチームや、ドライブに対するシャットからブレイクにつながるケースも多く、DEF力の高まりが得点力の向上にもつながっていました。

OFFでは、日頃培った巧みなドリブルワークからの力強い1on1をベースに、チームの特性に合わせた戦術が展開されており、OFF・DEF共に年間を通じて各チームがバスケットボールに本当に真剣に取り組んできた成果が、十分に発揮されていたと思います。

バスケットボールは当然のことながら、得点を競うスポーツですから、「いかに失点を減らすか」「いかに得点を増やすか」この2点に尽きると思います。相手よりもより得点するためには、OFFでは「どうやったら確実にシュートを決められるか」もっと突き詰めて言えば「どうしたらより簡単な、ノーマークのシチュエーションでシュートを打てるか」が重要です。まず1on1でシュートに行けるだけのスペースはあるか、DEFとのズレはどうか。そして、1on1をしかけてそのままシュートへいけるのか、それともパスを捌くべきなのか。プレイヤーは局面ごとに常に選択を迫られます。その一瞬一瞬で正しい判断を支えるものは、DEFの位置、そしてスペースです。「DEFに左右されずボールを思いのままに操れるハンドリング技術」、そして「空間を見つける視野」、そのスペースを有効に使うためにカッティングやフラッシュ、ドリブルインといった「バスケットボールのセオリーの理解」をさらに磨いていくと、もっと得点力が向上し、もっともっとバスケットボールが面白くなると思います。

6年生が、今後のバスケットボール人生においてますます成長し、活躍すること。5年生以下の子どもたちが、その6年生の技術や思いを受け継いで、これからのチームの中心として頑張ること。全道大会に出場するチームは、しっかりと準備をして、旭川の代表としてベストの状態で大いに臨むこと。それぞれを祈念して、今大会の総評とさせていただきます。